

金融・資本市場委員会（芦田昭充委員長）提言

「金融資本市場活性化とプレイヤー躍進への提言」

—金融イノベーションによるグローバル経営の実現に向けて—

金融・資本市場委員会（芦田昭充委員長）は3月26日、提言「金融資本市場活性化とプレイヤー躍進への提言—金融イノベーションによるグロー

バル経営の実現に向けて—」を
発表した。
経済同友会としては初めて、
金融機関の経営に焦点を当てた
提言であり、金融資本市場の国

際化と金融機関のグローバル展
開を通して日本の金融サービス
が活性化されることを目指して
いる。
提言の概略は以下の通り。

提言の概略

- ・企業のグローバルな発展を支援
- ・国民の金融ストックのグローバルな有効活用
- ・サービス産業の中核としての金融

金融が国際競争力を有することは、家計にも企業にもひいては国民経済にとっても望ましい。

金融が国際競争力を有することのメリット

- ・内向き志向と不十分な危機意識
- ・間接金融に偏重した構造問題
- ・金融機関の国際競争力
- ・金融機関に対する偏見や過剰な期待

グローバルな環境変化に適合できない、内向き志向、間接金融偏重の金融構造、資本コスト・リターンのか考え方、金融機関の競争力、社会の偏見等、問題は多い…。
日本の金融の問題は、閉鎖性と硬直性に集約できるのではないか。

問題意識
なぜ国際競争力がないのか？

金融資本市場
プレイヤー
—金融イノベ
グローバル経営の

付加価値を生み出す 金融の実現

開かれた質の高い
金融資本市場の実現

金融機関経営の
多様化と創造性発揮

市場の効率性と透明性を高め、アジアの国際金融センターを目指し、内なる国際化を推進。それが、ユーザー便益の向上と国民経済の利益に資する。

- 自由な戦略と創意工夫で国際競争を勝ち抜く日本発「グローバル金融機関」の登場を望む。外への国際化を推進し、日本の金融活性化の担い手となることを期待したい。

オープンでイノベティブな金融の実現
⇒「内なる国際化」
⇒「外への国際化」

将来展望と課題

金融の国際競争力強化に向けて

日本の金融が国際競争力を向上させていく上での課題は多い。金融庁が示した「金融・資本市場競争力強化プラン」がひとつの契機となるが、政治、行政、民間のそれぞれが、自らに課された課題を十分に認識し、本分を尽くしていくことが重要である。

人口減少社会が到来したわが国が経済成長を持続するためには、外に開かれた国づくりを行うことが不可欠であり、内向き志向からの脱却と、イノベーション創出を目指した改革を社会の各層でおこななければならない。短期的な改革の痛みを恐れ、政治や行政では総論賛成・各論反対が見られるが、民間が外に出て戦うことを避けるようであってはならない。

今般、われわれとして、初めて金融機関の経営に焦点を当て、議論を尽くした結果を提言として世に問う。われわれは、金融資本市場の国際化と金融機関のグローバル展開を通して日本の金融サービスが活性化されることを真に望んでおり、それが国民経済に利益をもたらすことを確信している。

現状認識

- ・止められないグローバル化の流れ
- ・グローバル化に遅れをとった日本の金融
- ・攻めの経営で将来の備えに

日本の金融資本市場、金融機関の国際的プレゼンスは低下。しかしわが国経済のグローバル化のために金融が果たす役割は大きい。金融・資本市場競争力強化プランが打ち出された今こそ変革の好機である。

活性化と躍進への提言

シジョンによる実現に向けて

具体的提言

金融の総合力強化に向けて

フィールドの整備

- 金融・資本市場競争力強化プランの速やかな実行
- 日本版SECの設立
- 金融商事高裁の設立
- 貯蓄から投資を推進する税制
- 日本市場の優位性の実現

ファンの成熟

- 金融リテラシーの向上
- 金融専門人材の育成
- 事業会社の経営課題
- メディア報道のあり方

レフェリー機能の向上

- ベターレギュレーションへの期待
- 検査・監督のあり方
- 金融商品取引法のフォローアップ

プレイヤーの強化

- 危機感をもったリーダーシップの発揮
- 規制時代の経営からの完全脱却
 - 顧客志向の徹底
 - 高付加価値ビジネスの強化
 - 選択と集中
 - 収益力強化とリスク管理の高度化
- グローバル化に相応しい経営の仕組み
 - 英語の運用
 - 人材活用
 - 報酬・人事制度
 - 組織づくり
 - ガバナンス、コンプライアンス

総合的な施策が必要不可欠。提言主眼はプレイヤーの強化。フィールド整備だけで優れた金融サービスが約束されるわけではない。金融が国際化・高度化する中、仲介者たるプロの役割は一層重要。何より、イノベーションを発揮する主体は民間である。